

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム 北のゆめ (ユニット1)		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17		
自己評価作成日	令和 5年 10月 10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 12月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0171300163-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 5年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設で暮らして、楽しく笑顔で過ごして長生きをしてもらい、最期はみんなに見守られて亡くなる。本人もご家族も「北のゆめ」に入居して良かったと心から思ってもらえる事を目指し、毎日入居者様と声をかけあい、笑顔で話すことを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR北広島駅から徒歩15分(車で5分)、東栄通りのバス停から3分の交通の便に恵まれた閑静な住宅街に立地し、近くには病院、図書館、文化ホール、市役所、コンビニなどがあり、球場やテニスコートを有した公園にも近く、東側一面には平地や田園地帯が広がり、遠くには山々を見渡せ生活環境に恵まれている。地域の一員として、町内会に加入し地域との交流に努めているが、コロナ禍のため町内会の行事は実施されていない。利用者は地域を散歩し庭の花を見ながら地域住民と挨拶したり、地域住民から野菜の差し入れがあるなど交流に努めている。看護師を配置し職員に看取りの研修をして、24時間対応の医師や職員、家族との連携の下、これまでに9人の看取りを体験し、利用者、家族が信頼できる体制ができています。利用者は音楽療法を兼ねたリズム体操に参加したり、塗り絵、パズル、カルタをしたり、テレビを見るなど、思い思いにゆったりと過ごしている。コロナ5類移行後は、人数を制限したり、検温等の体調管理をしながら対面での面会を実施し、家族には「北のゆめ便り」を送付し、利用者の日々の様子をメール等で知らせ、要望などを聞いて運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践している。ユニット会議には利用者の安全を第一に考え、明るく元気に毎日過ごしてもらえるようにそのようにすればよいのか、話し合いを行いながら、日々のケアに活かしている。	「利用者の安全を第一に考えます」など、5項目からなる理念を各フロアなどに掲示し、入社時のオリエンテーションにおいて理解を深め、朝の申し送り時には唱和するなどして職員は共有しケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	野菜を持ってきてくれる方との交流は継続しており、施設の為に畑の範囲を拡大してくれている。今期からの町内会長様との関わりは積極的ではないが、運営推進会議には地域の方を呼んで再開したため、地域交流を深めていきたい。	町内会に加入し地域との交流に努めている。コロナが5類に移行されたが、町内会の行事は実施されていない。利用者は地域を散歩し、庭の花を見ながら地域住民と挨拶するなど顔なじみの関係を築いている。また、地域住民が野菜を届けてくれるなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの壁に入居者募集等の張り紙をすることで、通りかかった人に入居を含めた相談をしていただいている。電話連絡等でも相談等の対応もしており、困った時に相談できるよう、会議等でも発信しながら、受皿になれるようにしていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を書面で行っていた時は、それに対する意見等は少なかったが、集まって開催した時は意見や情報等を得ることができた。日々、家族様からの意見等もサービス向上に活かせるようにしている。	年6回開催し、市職員、高齢者支援センター職員、北広島交番職員等の出席を得て、運営状況、事故報告、行事、コロナ対策などについて報告し、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。コロナ禍により第1回、第2回会議は職員のみで書面会議を行い、構成員には書面を送付して意見や助言を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、日頃からわからないことの確認をさせてもらったり、連絡を密にとらせてもらっている。運営推進会議にも参加していただけるようになり、今後も協力関係を気づけるように取り組んでいきたい。	市の担当職員とは普段から良好な関係を築いている。コロナ感染者発生時には保健所との仲介や、感染対策のための指導・助言を得るなど、連携を保ちながら対処し、回復に繋げることができた。また、運営推進会議参加時にも指導・助言を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会は3カ月に1回開催し、年2回以上の研修を行っている。禁止となる具体的な行為はしていないが、スピーチロック等で抑制はしていないか等も定期的に確認し、抑制について正しく理解できているか確認している。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、年に2回以上内部研修を開催して、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は昼はセンサー、夜は防犯のため施錠をしている。	

グループホーム 北のゆめ (ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と同様、一緒に委員会や研修を行っている。虐待とまでいかなくても、冷たい態度をとっていないか、これは虐待に入らないか等職員と管理者も腹を割って話せる関係づくりに努めている。また、職員のストレスや関係性にも注意してみている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ該当する入居者様がないため、活用はされていない。ケアマネの研修では制度について学ぶ機会があったが、今後も制度について学ぶ機会を持つようし、個々の必要性については協議しながら行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約についての十分な説明を行い、理解・納得が得られるようにしている。重要事項説明書の内容に変更がある時は、文書でお知らせし、同意確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見・要望は毎日の会話から把握に努め、家族様へは状態変化時の連絡や写真や手紙等でのコミュニケーション、ケアプランの更新時に意見や要望の確認を行っている。意見については運営にも反映させている。	日常の会話などから利用者の意見、要望を把握し、家族とは運営推進会議参加時や面会時に近況を報告し、また、「北のゆめ便り」を送付し、毎月メールで写真付きのメッセージや日々の様子を知らせると共に面会時や電話連絡時に意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は何でも言い合える関係にあり、職員の話や意見に耳を傾けられている。また、毎月のユニットミーティング等で意見についても運営や業務改善につなげている。	管理者は日々職員から意見や提案を聞いたり毎月のユニット会議やミーティング、年1回以上面談を行って意見や提案を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は一人ひとりの努力や実績等を色々な方面から聞いた意見も参考にしながら、観察評価して昇給や賞与にも反映させ、やりがい等にもつなげられるようにしている。有給等も取りやすいよう声掛けしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修は2カ月に1回定期的に行えるようにしている。その他では、実際の事例から困っている事に関する研修を行えるようにしている。外部の研修にもオンライン等で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修や会議等で同業者との交流はリモートでできている。介護職員はZoom等の利用をしたことのない職員も多く、外部の研修等の参加をしなければ難しい状況である。リモート研修を割り当てる等の取り組みをすすめていき、サービスの向上に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前にも、事前に情報収集を行い、ある程度本人の状況を把握した上でお話している。その上で、本人が困っていることや不安なこと、要望や意向等を確認し、職員間でも共有して安心を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、困っている事や不安等を確認、傾聴し、今までの経験談等も交えながらコミュニケーションをとることで、関係づくりを行っている。また、連絡等も密にして、不安を軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報や困っている事、意向を確認した上で、何を支援した方がよいかアセスメントし、それを共有した上で対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり、その日の体調等にも応じて、無理せず楽しめることを工夫し、笑顔で過ごしていただけるようにしている。職員と一緒に活動する中で、お互いに協力し合いながらできる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に連絡を取り、日々の様子や変化等をこまめに伝えられるようにしている。面会制限等も緩和してきているため、一緒に過ごす機会の確保もしている。職員だけではなく、家族様にも協力をお願いしながら、一緒に支え合えるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にも会えるようになってきている。今まで行っていた場所等にも行けるように配慮しており、新しい入居者様には、馴染みの場所や関係が本人にとっていい影響を与えている事も多く、それが途切れないように支援に努めている。	2ヶ月に1回の訪問美容、馴染みの店に職員と一緒に買い物に行ったり、家族との面会や一緒に自宅に行って外泊したり、家族と食事をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格や病状等も考慮しながら、悩みや心配事を言ったり、仲良く楽しんで過ごしていただけるように配慮しながら、食事の席やレクの実施等を行えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も連絡してくれる家族様もおり、在宅生活での心配事等の相談にも対応している。困った時はお願いしたいと再入居となった事例もある。看取りケア後もいい関係性が続いている家族もおり、必要な相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様へ希望を確認したり、日常生活の中の言動や行動の中から思いを把握している。話やすい環境づくりにも努めており、ゆっくり話ができるようにもしている。	日々のコミュニケーション、表情、行動、家族の情報などから思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向は申し送りの際やノートを利用して共有し、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との関係、どのように暮らし、何を大切に生きてきたのか等、入居時や日常生活から把握に努めている。気になる様子がみられる際には、家族様へも連絡を取りながら、情報収集を行い、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行い、情報収集に努めながら、カンファレンスやノートを利用しながら情報共有を行って現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子は介護者と看護師、家族や医療機関等と連絡を密にしている。それぞれの視点からの意見を反映しながら、本人がよりよく暮らすための課題やケアについて、モニタリングとアセスメントをした上でチームでカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。	利用者と家族の意向、主治医の意向を反映させて、ケア会議で話し合い、短期3ヶ月、長期1年毎に介護計画を作成し、利用者、家族に説明して確認を得ている。状況に変化があれば、その都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は記録の他、申し送りの際やノートを利用しながら密に情報共有をはかっている。ケアプラン表を毎日チェックし、定期的カンファレンスやモニタリングを行い、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様と家族を一番に考え、話し合いや相談をした上で、その時々合わせたニーズに柔軟に対応できるようにしている。特に、看取りケアには可能な限り、願いが叶えられ後悔のない最期を迎えられるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの希望にも合わせながら、外出支援や散歩、レク等を本人の力を発揮し、楽しんでできるように配慮している。今年から、音楽療法を再開し、歌が豊かな暮らしにもつながるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診継続や訪問診療への移行等の相談を行っている。情報共有と連絡調整を行いながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。受診は基本的に家族が付き添い、必要に応じて職員が対応している。訪問医が月2回、看護職員、状況により訪問看護師が利用者の健康管理を行っている。	

グループホーム 北のゆめ (ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきや変化は都度、施設看護師に報告され、看護師が確認した上でケアの方法の相談や指導をしたり、必要時は適切な受診や診療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況や入所中の様子やケアへの注意点等を細かく看護添書に記載し、申し送りを行い連携に努めている。早期に退院できるように定期的に医療機関と情報交換を行いながら、退院時にもスムーズに元の生活に戻るよう連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前意向確認書にて、入居者様とその家族へ医療への希望と看取りの意向確認を行っている。状況変化があれば、都度連絡を行い、方針を共有しながら、医療機関との連携もと、チームで看取り支援に取り組んでいる。	入居時に利用者と家族に「重度化した場合における対応および看取り介護に関する指針」に基づき説明し同意を得ている。重度化した場合は、家族、主治医と連携して、利用者や家族の気持ちに寄り添い、その時できる最善のケアを行うよう取り組んでいる。これまでに9名看取りの経験があり、事業所においてできるだけ最後まで食事をとり穏やかな日々を過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化している。急変時や事故発生時にスムーズに動けるよう、情報をまとめて持ち出せるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災訓練を行い、優先順位をつけながら行動していく事、マニュアルも訓練をしていく中で都度見直し更新を行っている。自身を想定した場合、避難の妨げになること等リスクマネジメントを行い、環境整備等対策もしている。	消防署職員の立ち合いの下、年2回(8月実施済み、11月実施予定)避難訓練を実施・予定している。食料、水、ストーブ、灯油、電灯、ランタン等を備蓄して災害に備えている。	災害時の連絡方法として、災害時連絡・緊急出動マニュアルを作成して災害に備えているが、全職員の連絡名簿となっていない。連絡方法について検討することを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳については、職員間で話し合う機会や研修を定期的に設けている。日々の業務では、一人ひとりの人格を尊重し、配慮しながら、言葉づかいやケアに気をつけて対応している。	接遇に関する研修を行って、言葉かけに気をつけ、一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。個人情報に関する書類は事務室に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様第一に考え、日常生活の中で本人の思いや希望が言える環境づくりをしながら、自己決定できるように働きかけている。また、話したい気持ちを遮らないように心掛けている。		

グループホーム 北のゆめ (ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、強要はせず、過ごしたいように過ごしてもらえるようにしている。みんなでレクを楽しんだり、趣味を楽しんだり、ゆっくりテレビを観たり等希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、今日着たい洋服と一緒に準備するように声掛けを心がけている。着たい洋服等の希望を聞き、家族様に持参してもらったり、購入支援等も行っている。また、2か月に1回の訪問理容の継続をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には一人ひとり食べたい物の希望を聞き、料理やケーキを提供。季節ごとの行事・食事にも手作り料理・おやつを提供。片付けは声掛け一緒に行っている。	外部食材業者の献立付き食材サービスを利用したり、利用者の希望や行事に合わせた献立や季節の料理(おはぎ、お花見だんごなど)を利用者と一緒につくったり、地域住民から差し入れのあった季節の野菜などが食卓を飾り食事を楽しんでいる。利用者は能力に応じ、テーブル拭きや片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・形態を検討し、1日の水分確保が取れているかどうかを食事水分チェック表に記入する。日々状態が変化する場合があるので観察を行っている。食事水分摂取が取れていない場合は様子を見て、必要時管理者や看護師に報告、相談をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声掛けし、誘導・見守りを行い口腔状態を確認している。寝たきりの人は自室にて口腔ケアをし口の中を日々観察している。義歯は定期的に洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて個々の排泄パターンに合わせトイレ誘導し、排泄チェック表に記入する。失禁・排泄がわからなくなった入居者様にはリハビリを使用しているが、声掛けを行いながら、失禁せずトイレで排泄できるよう支援を行っている。	排泄チェックシートで排泄パターンを把握し、表情や態度などから声かけし、トイレでの排泄ができるよう支援している。利用者の能力に合わせて、パッドやパンツを使い分けて失敗の少ない排泄を支援している。夜間もトイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防とし、1日1回レクで軽体操・飲食物の工夫、排泄水分チェック表を記入している。一人ひとりの排泄状態を確認し、必要時は管理者や看護師に報告し、指示を仰いでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前後の水分補給は必ず提供。気持ちよく入浴できるように声掛けを行っている。拒否があった場合は無理せず変更をしながら対応。寝たきりの人には自室にて部分浴や清拭も行っている。	最低週2回の入浴となっている。利用者の要望や介護状況に応じて、シャワー浴や全身清拭、ドライシャンプーなどで支援している。入浴剤を使用し、職員との会話を楽しみながら、心地よく楽しく入浴できるよう工夫している。		

グループホーム 北のゆめ (ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて対応している。入居者が眠れなく何度も起きて来られる時は、話に耳を傾けたりしながら見守り、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を確認する。内服セット時にはダブルチェックを行っている。服用時には名前や日付時間を声に出して入居者様に確認してもらい、飲み込みまで確認している。症状が変化した時は看護師や管理者へ報告して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに出来る役割を分担して行っている(新聞折り・テーブル拭き・タオル干し等)。また入居者が大好きなパズルやレクなど職員と一緒に楽しく過ごせるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類移行、本人希望または家族希望で外出・外泊をされている。面会も行っている。外出レクに関しては、計画を立てている段階ではあるが、どこかにただ出かけるというだけでは嫌だという意見もあるため、外食ができるように計画をたてている。	コロナ禍以前は花見や紅葉見物に出かけていたが5類移行後は、近くを散歩したり、職員と一緒に買い物に行ったり、家族と一緒に自宅に行き外泊したり、家族と食事をするなどしている。大きな窓からの日光浴、窓を開けての外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことはしていないが、必要な物や欲しいものの意向を確認し、家族様とも相談しながら希望に応じて購入支援等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を使用している入居者様は自ら連絡したり、会いたい、話したい希望にはできる限り寄り添いながら対応している。年賀状を送ることを恒例としており、字を書くことが困難な入居者様に対しては、代筆の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾を壁に飾り、季節を感じていただけるように工夫をしている。環境は安全第一に考えながら配置を入居者様の状況に応じて検討調整を適時行っている。室温にも配慮している。	居間・食堂は一体的で大きな窓があり、明るく過ごしやすい空間を作りだしている。壁には季節ごとに職員と利用者が一緒に作った月見うさぎや銀杏の木のちぎり絵、貼り絵などの作品が飾られ、季節を感じる事が出来る。居間では軽体操・ラジオ体操、パズル、カルタをしたり、テレビを見るなど思い思いにゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の様子を日々観察しながら、お互いが楽しく、ストレスがたまずに過ごせるよう、居場所の工夫も適時行っている。一人になりたい際には部屋で過ごされることも大切にしている。		

グループホーム 北のゆめ (ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を使用している。入居者の馴染みのものや、プレゼントされたもの等は職員が協力しながら一緒に整理したり飾ったりしている。誕生日ボードも部屋に飾っており、喜ばれている。	各居室に介護ベッドが設置されている。利用者は使い慣れた家具、テレビや仏壇など馴染みの品を持ち込み、壁には家族の写真等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋がわからなくなってしまう入居者様には、名札をつけてわかりやすくする、便所と張り紙をすする、手をしっかりと洗えるようにと張り紙等を行っている。手すりも利用しながら安全にも配慮している。		